

中学校

平成 12 年 度

教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教育委員会

平成12年度

教育研究員名簿（道徳）

分科 会名	区市町 村名	学 校 名	氏 名
第一 分科 会	新 宿	牛 込 第 三 中 学 校	河 野 照 美
	江 東	第 四 砂 町 中 学 校	古 川 良 行
	世 田 谷	太 子 堂 中 学 校	齋 藤 佳 美
	板 橋	志 村 第 一 中 学 校	○ 田 中 京 子
	武 蔵 野	第 二 中 学 校	菅 野 由 紀 子
	昭 島	瑞 雲 中 学 校	戸 田 恵 介
	東 大 和	第 二 中 学 校	須 貝 牧 子
第二 分科 会	墨 田	立 花 中 学 校	五 関 説 子
	大 田	出 雲 中 学 校	米 岡 恵 子
	荒 川	尾 久 八 幡 中 学 校	◎ 山 川 幸 伸
	練 馬	田 柄 中 学 校	竹 之 内 勝
	青 梅	第 七 中 学 校	雨 谷 直 人
	日 野	平 山 中 学 校	吉 川 篤

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 東京都立教育研究所企画調査部指導主事 中 嶋 隆 雄

目 次

I	研究主題設定の理由	2
II	研究の方法	4
III	内容項目 2-(5) 「他に学ぶ広い心」についての指導（第1分科会）	5
1	主題設定の理由	5
2	研究の内容と方法	6
(1)	内容項目 2-(5) のとらえ方	6
(2)	生徒の実態と指導計画	7
(3)	指導の工夫	8
(4)	指導事例（第2学年）	9
3	内容項目 2-(5) 「他に学ぶ広い心」のまとめ	12
IV	内容項目 2-(2) 「思いやりの心」についての指導（第2分科会）	14
1	主題設定の理由	14
2	研究の内容と方法	15
(1)	内容項目 2-(2) のとらえ方	15
(2)	生徒の実態と指導計画	16
(3)	指導の工夫	17
(4)	指導事例（第2学年）	19
3	内容項目 2-(2) 「思いやりの心」のまとめ	23
V	まとめと今後の課題	24

豊かな人間性をはぐくむ道徳の時間の指導

I 研究主題設定の理由

平成14年度からスタートする新学習指導要領及びその移行期間中の教育課程に関して、各校で様々な論議がされ、研究や実践が試みられている。

新しい教育課程においては、基準の改善のねらいの大きな柱として、「豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること」があげられている。また、生徒に「生きる力」を育成することが求められており、その核となるのが豊かな人間性である。さらに体験活動を生かしたり、家庭や地域の人々に協力を求めながら、各校において道徳教育を一層充実していくこと、未来へ向けて自らが課題に取り組み、ともに考える道徳教育の推進が強調されている。

一方、中学生に目を向けると、彼らを取り巻く状況は必ずしも明るいものばかりではない。むしろ世間が彼らを見る目は厳しいものがあり、彼らを育てる社会環境も好ましくない状況が見られる。いつの時代も青少年の行動傾向は、形を変えながらひとつの社会現象として問題とされてきた。例えば、校内暴力、自殺、いじめ、不登校、等々の問題が挙げられる。また、現在は、少年犯罪の低年齢化や凶悪化及び若者のモラルの低下等が大きな問題になっている。

このような青少年の問題が取り上げられるたびに、学校における「心の教育の充実」が叫ばれてきた。こうした背景の中で、道徳教育は今まで以上に大きな役割を担っていかなければならない。特に、そのかなめとなる道徳の時間の一層の工夫と充実が求められている。そこで、どのような授業を実践していけば、中学生が道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を身に付けることができるかについて検討した。中学生の時期は、心身共に大きく発達し、自己の生き方を模索したり悩み始めたりするときである。また人間関係は飛躍的に拡大するが、他者とのかかわり方に悩むときであり、他者との人間関係を豊かにもてるかどうか、人格の形成に重大な影響を及ぼす。そこで、今年度の研究の仮説を「自己を他の人とのかかわりの中でとらえて、望ましい人間関係の育成を図ることをねらいとした道徳の時間が実践されれば、豊かな人間性をはぐくむことができるであろう」と設定した。

以上のことから、研究主題は「豊かな人間性をはぐくむ道徳の時間の指導」とし、豊かな人間性を育成する道徳の時間の指導の在り方を追究した。

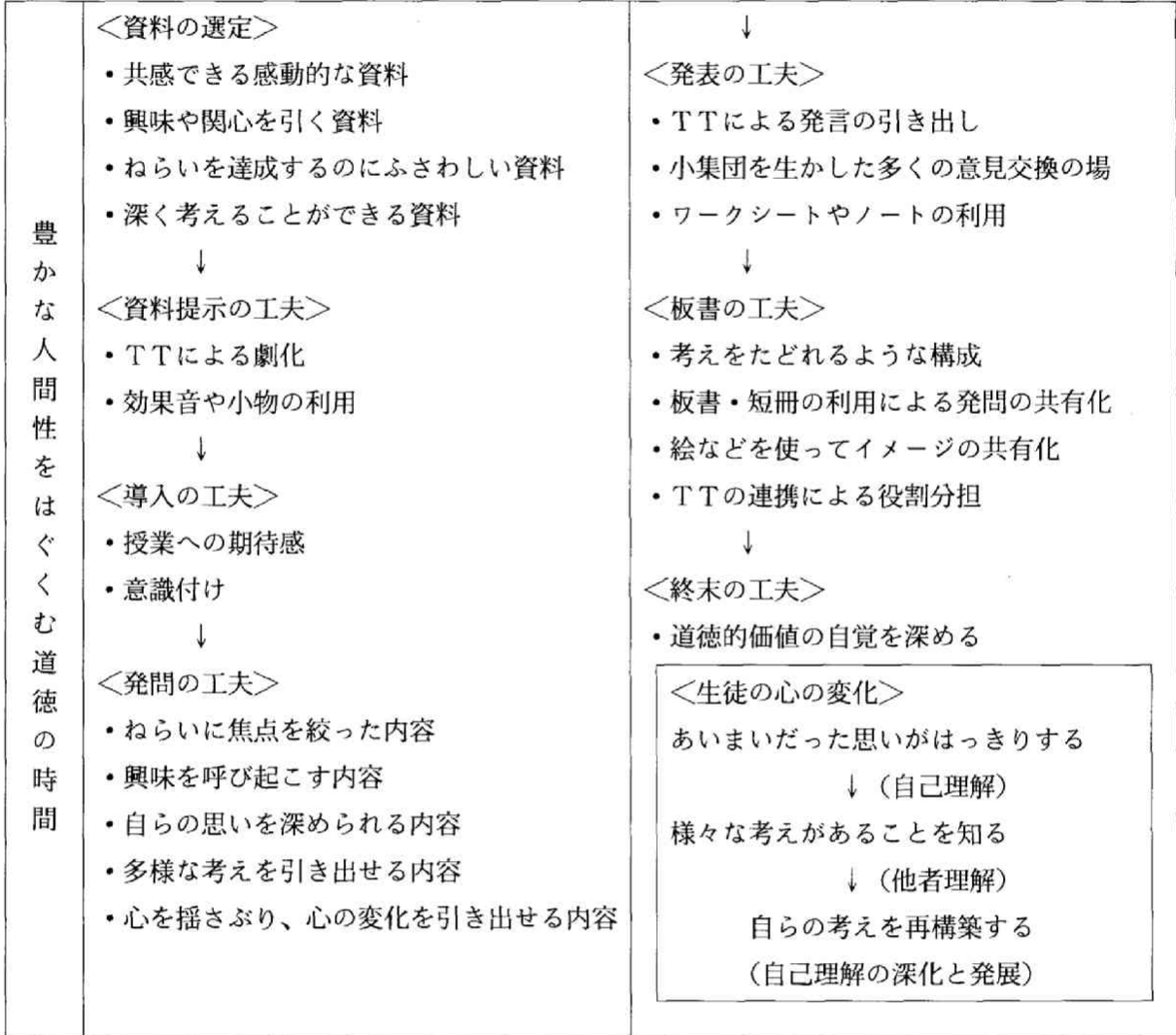
本研究を進めるに当たっては2つの分科会を設定し、研究主題との関連から、両分科会ともに2の柱「主として他の人とのかかわりに関すること」を取り上げた。

内容項目については、第1分科会では2-(5)「他に学ぶ広い心」を、第2分科会では、2-(2)「思いやり」を窓口として研究を進めることにした。

《豊かな人間性をはぐくむ道德の時間とは》

＜生徒の実態の把握＞

- ・生徒とのコミュニケーション
- ・アンケート調査と分析



他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ
それぞれの個性や立場を尊重し、他に学ぶ広い心をもつ



道德的価値の自覚
人間としての生き方の自覚
道德的実践力の育成

Ⅱ 研究の方法

1 研究の概要

各分科会でまず研究仮説に基づいた調査研究を行った。その結果から指導計画を立て、検証授業を行った。検証授業後、再度調査を行って生徒の変容を把握し、研究仮説が検証されたかどうかを調べる方法をとった。

2 調査研究

(1) 調査対象

都内公立中学校8校、2学年361人を対象として事前調査を平成12年7月に、事後調査を平成12年10月に実施した。

(2) 調査内容

共通の調査として自己認知に関する項目、対人関係に関する項目、学校適応に関する項目、各10項目を行った。各分科会ごとに事例に対する反応を見る調査を行った。

ア 自己認知の項目（自分自身について、次の10項目に5段階で答える）

1. 明るい	——	暗い	6. 無責任な	——	責任感のある
2. 強い	——	弱い	7. 消極的な	——	積極的な
3. 温かい	——	冷たい	8. 信じやすい	——	疑い深い
4. 頼りない	——	頼もしい	9. 無気力な	——	意欲的な
5. 親切的な	——	いじわるな	10. 自分勝手な	——	思いやりのある

イ 対人関係の項目（対人関係について、次の10項目に5段階で答える）

1. 人の気分の変化に敏感	6. ゲームは一人より相手がいる方が良い
2. 人の気持ちを理解しようとする	7. 人からどう思われているか気になる
3. 人の外見が気になる	8. 人の行動の理由が知りたい
4. 人のことをよく考える	9. マイペースで行動する
5. 人付き合いがよい	10. 身近な人についていろいろ知りたい

ウ 学校適応の項目（学校生活について、次の10項目に5段階で答える）

1. 学校生活に満足している	6. 何でも話せる友人がいる
2. 授業中別のことをしてもよい	7. 先生と気軽に話せる
3. 友達と一緒にいると楽しい	8. 規則を守らなければならないと思う
4. 友達づきあいがうとうしい	9. 将来に希望を持っている
5. 勉強が楽しい	10. 行事などに積極的に取り組む

エ 事例に対する反応の項目（次の事例に1分科会は3段階、2分科会は4段階で答える）

第1分科会	・リレーの順番は話し合いにするか、くじにするか ・掃除のより良いやり方を提案されたら取り入れるかどうか
第2分科会	・電車で目の前に立った老人に席を譲ることができるか ・仕事を代わってくれたクラスの人たちに対する感謝の気持ちがあるか

Ⅲ 内容項目 2-(5)「他に学ぶ広い心」についての指導(第1分科会)

1 主題設定の理由

人間は、様々な集団や社会の一員として生活を営んでおり、他の人とのかかわりなくして生きていくことはできない存在である。

しかしながら、最近では、核家族化や少子化が進み、地域の教育力も低下してきている。そのため、家族や地域の中で、他の人とのかかわりを身に付ける機会が少なくなっている。謙虚になって相手から何かを学ぶという経験は乏しくなり、その結果、人間関係も希薄になっていく傾向がある。

また、社会全体や他人のことを考えずに、個人の利益を優先させるような風潮も見られ、このことは、生徒の道徳性の育成に大きな影響を与えている。中学生の友人関係を見ても、表面的に上手に付き合っているだけの場合が少なくない。相手の個性が自分と異なっていることに気付いても、そこから何かを学び取ろうという姿勢にはつなげていない。また、意見の違いが明らかになり自分の主張が通らない場合には、冷静さを失い攻撃的になるケースも目立ってきている。このような状況の中では、相手から学ぼうとする謙虚さは生まれにくい。

一方、中学生の時期は、一人一人のものの見方や考え方に違いが現れ、それぞれの個性がはっきりしてくる時期でもある。と同時に、この時期は反抗期でもあり、自己の考えや立場にこだわり、それを主張するあまり、友人間で意見の対立や摩擦が生じることもある。自己主張の内容がわがままと分かっているにもかかわらず、相手の意見に耳を傾けずにかたくなな態度をとることがある。自分自身の考え方を絶対視し、謙虚に他から学ぶということが難しい時期だと言える。

今後、国際化、高度情報化、高齢化が進めば、外国人、高齢者、障害者など様々な価値観をもつ人との共生が、ますます重要になってくる。そのとき、相手の個性や立場を尊重し相手のことを考えられる心、相手の個性を受け入れ相手から学び取ろうとする広い心が、豊かな人間関係を作る基盤となると考える。

また、人間がよりよく成長していくためには、いろいろな人とかかわりながら、新しい見方や考え方に気付いていくことや、自分一人ではできなかった幅広い見方や考え方ができるようになることが不可欠である。

以上の点から、第1分科会では、21世紀を担う生徒がよりよい人間として成長していくためには、お互いの個性や立場を尊重し、いろいろな見方や考え方を理解して、謙虚に他に学ぶ広い心を育てることが大切であると考えた。そして、「豊かな人間性をはぐくむ」ために内容項目 2-(5)「他に学ぶ広い心」を育てることを通して、次のような仮説に基づいて研究を進めることにした。

— 仮説 —

道徳の時間を通して、相手の考えや立場を理解し、それぞれの差異を認め、個性を尊重しようとする態度を育てることができれば、他に学ぶ広い心をはぐくむことができるであろう。

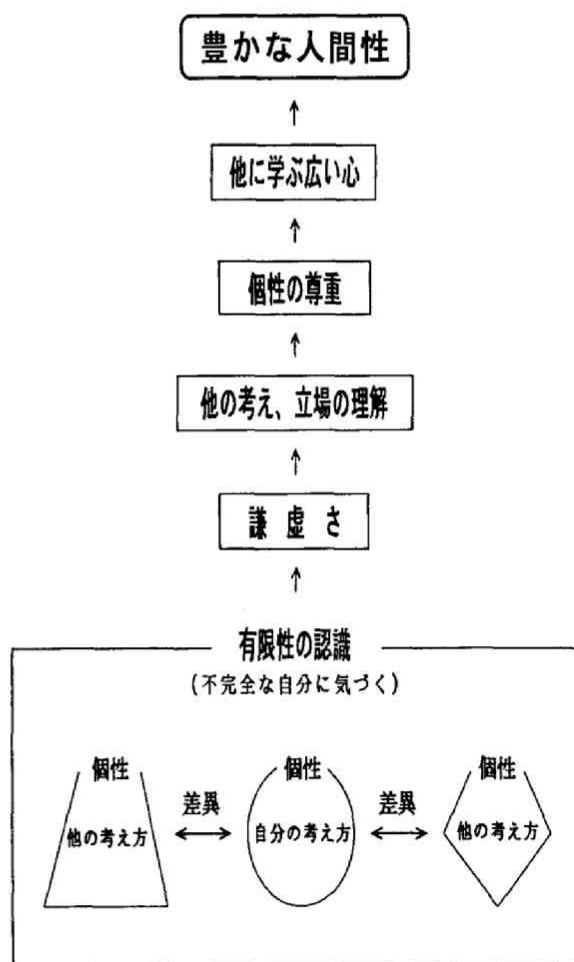
2 研究の内容と方法

(1) 内容項目2-(5) のとらえ方

内容項目2-(5)は「それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、謙虚に他に学ぶ広い心をもつこと」が指導内容である。人は、それぞれが違った環境の中で生まれ育つ。その成長の中、様々な経験と人との出会いを繰り返して、自らを確立していくのである。特に、中学生の時期は、個性が明確になり、ものの見方や考え方の違いが大きく現れる。また、人間は、全ての人の立場について理解し物事に対応することは難しく、自分の経験に基づき、自分なりの視野の範囲でしか物事を見ることができない。そこで、様々な摩擦を生じることがある。自らの見方や考え方が通らないと、感情的に非難し、その状況を片付けようとしやすい。だが、中学生の時期は、いろいろなことを吸収できる柔軟さを併せもっている。人を非難するだけでなく、話し合いを通して、自分の意見を率直に出し合い、人の意見にも耳を傾けていけば、自分の考えの未熟さに気付くことができるのではないかと。そして、人には様々な立場があり、多様な考え方があることを理解することができるだろう。

私たちは、上記のような観点から、右図のように考えた。人が、ある物事についてのものの見方や考え方をもつとき、様々な立場から考えるには限界があり、その有限性に気付くには、率直に意見を交換し、お互いの考えを知ることから始まる。その中で、自分の考えが絶対でないことに気付き、人の意見に謙虚に耳を傾ける姿勢が生まれると考える。その過程で、それぞれの立場に立ち、考えていることを理解し、異なる考え方にも価値や意義を感じられるようになるのである。そして、一人一人の個性を自らの個性と同じように尊重できるようになるだろう。人は、自らが集団の中で尊重されているという安心感、充実感があって自らの個性を伸ばすことができる。個性は、自ら一人で成長させることができるものではない。他から認められて育つのである。また、自分が認められれば、他者をも認めるようになっていく。このような相互に認め合う関係が、広い心を育てるのである。他から学び、自らをさらに豊かにできる人間こそ、目指す生徒像である。この視点から研究の方向性を見据え調査研究に基づき指導計画を立て進めることにした。

2-(5)のとらえ方



(2) 生徒の実態と指導計画

ア 調査研究について

研究の方向性を探り、指導計画を作成するに当たり事前に生徒の意識調査を行った。自己認知、対人関係、学校適応のそれぞれ10項目を5段階の選択肢で数値化して集計し、それぞれの項目間で統計処理を行った。また、寛容に関する二つの事例の意識調査を行い、その調査結果と自己認知、対人関係、学校適応の調査項目との関係を統計処理し調べた。事例1は、クラス全員リレーの順番の決め方から「広い心」を持っているかを調べた。

- ① くじ引き型……「勝ち負けにこだわらず、平等にくじで順番を決める。」
- ② 条件型………「短距離の記録を基に遅い人と早い人が交互に走る。」
- ③ 寛容型………両方の考え方が分かる。(広い心を持っているととらえた)

次に事例2では、教室掃除の場面での他の忠告に対する意識から、「広い心」について調べた。

- ① 必要ない型………「清掃時に黒板拭きに対する他の忠告に従う必要はない」
- ② 仕方なくやる型……仕方なくやる
- ③ 受け入れ型………なるほどそうだと思ってやる (広い心を持っているととらえた)

イ 調査結果と生徒の実態

事例1の集計結果は、①くじ引き型9.7% ②条件型42.5% ③寛容型47.8%であった。この事例1と自己認知群のクロス集計から、明るく・やる気のある生徒ほど、②条件型・③寛容型の選択肢を選択する傾向にある。明るく・やる気のある生徒を増やす指導ができれば、生徒は学校生活や対人関係にも積極的にかかわりながら、「他に学ぶ広い心」を高めていくと考えた。また、事例2の結果は、①必要ない型13.8% ②仕方なくやる型48.3% ③受け入れ型37.9%であった。この事例2と学校適応や対人関係のクロス集計から、学校適応や対人関係の高い生徒ほど学校のルールや他者の意見を素直に受け入れる傾向にあることが分かった。

ウ 指導計画

調査結果に基づき「他に学ぶ広い心」を育てるためには、自己認知・対人関係・学校適応を学校生活のあらゆる場面で総合的に向上させていくことが大切である。生徒の実態や学校の行事などを考えて、7月の調査の後、次の指導計画を立て実施した。

9月第3週	道徳	「小さいこと」1-(1) 基本的な生活習慣 ・自己認知、学校適応を高める
9月第4週	学活	運動会の選手決めで生徒の特性を生かして行う ・自己認知を高め、対人関係を深める
9月第5週	運動会	学級の応援を勝負にこだわらずするよう指導する ・学校適応を高める
10月第1週	学活	運動会の作文紹介(自分の役割を精一杯果たした喜びの紹介) ・自己認知、学校適応を高め、対人関係を深める
10月第2週	道徳	現代の医療現場(新聞の記事抜粋)2-(5)立場の理解 ・対人関係を高める

10月第3週	道徳	「主役を射止めて」2-(5)他に学ぶ広い心 ・対人関係を高める
10月第4週	学活	合唱コンクールの指揮者、伴奏者決め（役割の自覚） ・自己認知、対人関係、学校適応を高める

(3) 指導の工夫

ア 資料の選定

第1分科会では、8点の資料の中から次のような観点で選定を行った。

- ・生徒にとって分かりやすく身近に感じられるもの
- ・個性や見方・考え方の差異がはっきり読み取れるもの
- ・相手の考え方や立場について考えさせることができるもの
- ・謙虚に他から学ぶ姿勢について考えさせることができるもの

資料「主役を射止めて」は、登場人物2人の対照的な行動から、考え方の差や立場について考えさせることができ、なおかつ、謙虚に学ぶことの大切さを実感できる内容であったので、本資料を選定し研究を行うことにした。

〈検討した資料〉

小さな出来事（光村図書）、冷めた料理、主役を射止めて（文教社）、茶わん開眼（創育）、泥流地帯、石段の思い出、貝売り（教育出版）、山寺のびわの実（あかつき）

イ 導入の工夫

右のだまし絵を用いて、1つの絵でも見方によって違った絵に見えることに気付かせるという方法で視覚的に訴えることを工夫した。自分のものの見方や考え方には限界があることを知り、いろいろな視点から物事を見ることの大切さに気付くきっかけにもなり、有効であると考えた。



だまし絵

ウ 展開の工夫

○ 資料提示について

資料を読み始める前に、「舞台を成功させるために練習をしていること」「登場人物のうち、綾子と由紀の二人の取り組み方に注目して読むこと」をおさえることで、対照的な姿に焦点を当てて考えさせるようにしている。

○ 発問について

「謙虚に他から学ぶ広い心をもとうとする心情を育てる」ことがねらいである。綾子と由紀の取り組み方の違いを浮き彫りにし、「綾子に足りないもの」を問うことによって、他から学ぶことの大切さに気付かせたい。また、授業を展開していく上で、価値観を揺さぶる発言を取り入れた。「でも、綾子のような人がいてもいいのではないか」という投げかけをし、この考え方についてどう思うかを話し合わせる。その際、自分とは

異なる個性を発見したり、自分のものの考え方の有限性に気付いたり、相手の立場に立って考えたり、他の意見を尊重することの大切さについて話し合ったりすることによって、ねらいに迫っていきたい。話し合いの場面では、綾子を否定するのではなく、綾子のように自己主張することも時として必要であることを知らせながら、主張ばかりでなく謙虚に学ぶことの大切さを理解させていくことにした。さらに話し合いの内容に沿った代替発問を用意し、どんな状況にも対応できるように工夫した。

○ ティームティーチング（TT）による指導について

今回、以下のような効果が得られると考えて、道徳の時間にTTを導入することにした。

- ・配役を決めて資料を朗読することにより、臨場感あふれる朗読ができる。
- ・複数の教師がかかわることにより話し合いを深めていくことができ、生徒の状況に合わせた助言ができる。
- ・生徒の反応の様子を把握し、それを共有することで、より迅速に対応することができる。
- ・複数の教員により多様な考え方を提示できる。

TTを導入するに当たり、よりきめ細かい指導を目指して、準備段階で事前に話し合いを行い、指導内容・指導過程などについて検討を重ねた。その結果、いろいろな視点から見直すことができ、幅が広がった。また、他から学ぶことの大切さを確認した後で、担任以外の教師が異なる考え方をねらいにかかわって投げかけることにより、揺さぶりをかけるとというのが今回の展開の中心発問につながっている。この考え方の提示によって、より活発に意見を引き出したいと考えた。

エ 終末の工夫

終末で再度だまし絵を提示し、導入の時よりも意識して異なる見方ができるようにさせた。このことで、他から様々な考え方を学び生かしていくことを実感してもらいたいと考えたからである。さらに、教師の説話で、より身近なこととして感じられるようにしていきたい。

(4) 指導事例（第2学年）

ア 主題名 「他に学ぶ広い心」〈内容項目2-(5)〉

イ 資料名 「主役を射止めて」（文教社）

ウ 資料の概要

綾子は、初めて主役に抜擢された。主役として何とか舞台を成功させたいという気持ちが高く、自分の考えを仲間に押しつけてしまう。しかし、教師や仲間には受け入れてもらえない。自分の思い通りにならない綾子はイライラがつのる。そんなとき、それまで互いの良さを吸収し合ってきた友達が、後輩からも意見を聞いて役作りに取り組んでいる姿を目の当たりにする。

エ ねらい

謙虚に他から学ぶ広い心をもとうとする心情を育てる。

オ 学習指導過程

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	T 1	T 2	指導上の留意点
導 入	1. だまし絵を見る。 「この絵は何に見えますか。」	「おばあさん」 「横を向いた女の人」 「よくわからない」	指名	だまし絵を提示する。	・絵が見方で違って見えることに気付かせる。
展	2. 綾子と由紀のそれぞれの舞台に対する取り組み方に注目しながら、資料を読む。 【発問①】 「綾子と由紀の舞台に対する取り組み方についてあげてみよう。」 【発問②】 「私に足りないもの…とは何だと思いますか。」	<綾子> ・自分の考えた通りに進めていこうとしている。 <由紀> ・人に意見を聞いて役作りに生かそうとしている。 ・後輩からも意見を聞いている。 《ワークシートに記入》 「謙虚な気持ち」 「他の人の意見を聞いて自分に生かそうとする気持ち」 「他の人から学ぶこと」	資料の題名を板書 朗読（綾子） 【発問①】 指名	登場人物の説明。 朗読 短冊をはる。 板書	・綾子と由紀の違いを読み取らせるため、あらかじめ、登場人物を紹介する。 ・T1、T2が朗読し、臨場感を演出する。 ・綾子と由紀を比べたとき、他に学ぼうとする姿勢の違いを明らかにする。
開	3. T2の「綾子のような人がいてもいいのではないか」について考える。 【発問③】 「T2の考えについてどう思いますか。」 ○班をつくり、意見交換を行う。 ○発表する。	・綾子は自分の意見ばかり通そうとするのでいいと思わない。 ・綾子のような人がいてもいいと思う。 ・綾子のように自分の意見を言える人も必要だと思う。	【発問②】 生徒の様子を観察	短冊をはる。 ワークシート配布 生徒の様子を観察 『揺さぶり発言』をする。 「綾子のような人 自己主張の できる人が いてもいい のでは。」 板書	・2人の違いを比較して考えるように促す。 ・T2は、綾子を認める発言をして、生徒に揺さぶりをかける。 ・綾子を否定するのではなく、綾子のように自己主張することも時として必要であることを知らせる。ただし、自己主張ばかりでなく、謙虚に他から学ぶことも大切であることを理解させる。 ※綾子否定派が多ければ、

	【発問④】 「綾子がこのままだったら舞台はうまくいくと思いますか。」	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくいかないと思う。 	【発問④】 (補助発問) 「どうしたらうまくいくか。」	【代替発問④】 T2「綾子のような人は多いのでは」 T1「綾子のようにならないためにはどうすればいいか」	
終末	4. だまし絵をもう1度見る。 「どんな絵に見えますか。」 5. 教師の説話を聞く。 【発問⑤】 「今日の道徳の時間で学んだことはどんなことですか。」	「女の人とおばあさん」 「始めよりわかりやすい」 <<ワークシートに記入>>	指名 説話 【発問⑤】 生徒の様子を観察	<ul style="list-style-type: none"> ・だまし絵を提示する。 ・短冊をはる。生徒の様子を観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな見方ができることを、確認する。 ・教師の経験談から、謙虚に他に学ぶ姿勢が必要なことを伝えたい。

カ 評価の観点

謙虚に他から学ぶことの大切さを感じ取ることができたか。

キ 今日道徳の時間で学んだこと（生徒の感想より）

- ・周りの人のいいところを見つけて、自分のものにする。
- ・自分の意見を通してばかりいないで、自分の「足りないもの」を見つけることは大切なことだと思った。
- ・人は一つのことによって心をとられてしまうと別のことが見えなくなってしまう。だから、多方向から物事を見ることができるよう努力しよう。
- ・心を広くして、周りの人の意見も取り入れることが大切。
- ・自分の考えだけでなく、他人の意見も大切にしなければならないと思った。
- ・他の人の意見を聞いてみると、今まで分からなかったことが分かるようになる。

ク 考察

- ・『揺さぶり発言』は、生徒が安易にねらいとする道徳的価値に同調しそうになったとき、T2が「本当にそれでいいのだろうか」と思考に揺さぶりをかけるのである。日常生活の中でも、答えを出そうとしたときにどちらがいいのだろうかと思え動くことはしばしばである。気持ちの揺れ動きを、道徳の授業の中でも再現し、立ち止まって深く考えさせる場面を設定した。T2の揺さぶり発言をきっかけに、班ごとに様々な意見が交換され、生徒にねらいとする道徳的価値を深めることができた。
- ・指導上の留意点に【代替発問】を用意した。揺さぶり発言によって生徒の気持ちは揺れ動いており、生徒の気持ちの変化に応じた対応が必要となる。今回はTTで事前の打ち合わせを十分に行い、授業を円滑に進めることができた。
- ・導入および終末で同じだまし絵を用いたが、物事を多面的に見ることの大切さに気付く効果あげた。

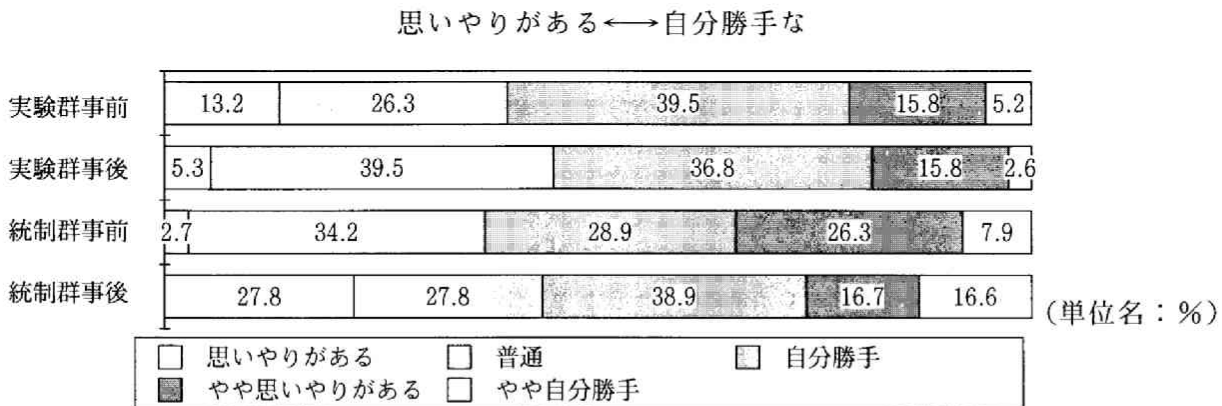
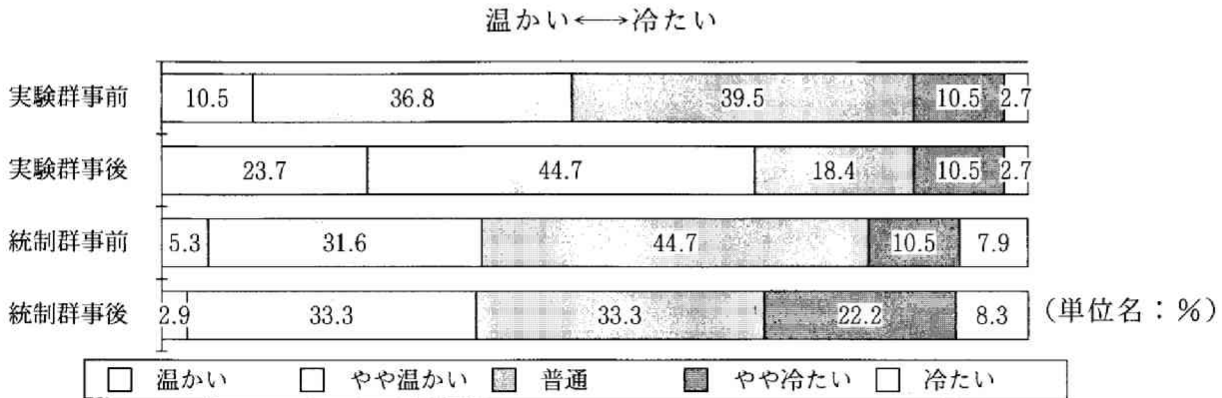
3 内容項目2-(5)「他に学ぶ広い心」のまとめ

第1分科会の研究の成果と考察、そして課題について述べる。

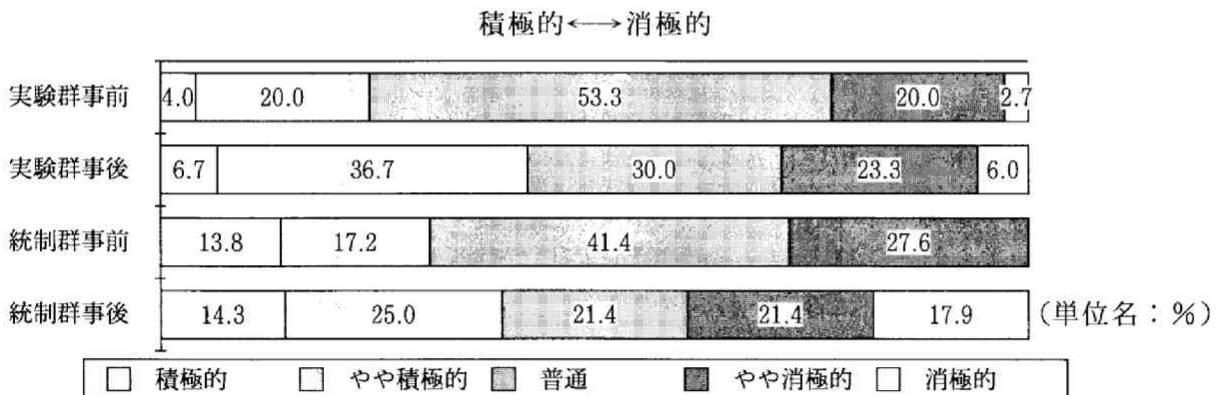
(1) 成 果

① 事前、事後の調査結果から、生徒の意識に変容が見られた項目があることが分かった。

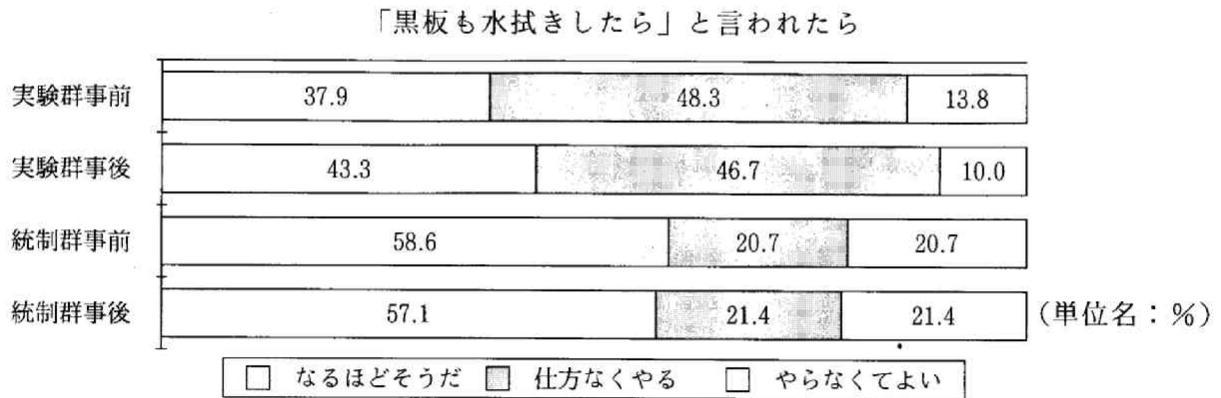
ア 自己認知の項目で、自分自身を「温かい、やや温かい」および「思いやりがある、やや思いやりがある」と認知している生徒の割合が、実験群において、事後では上昇している。



イ 「学校適応」の「積極性」の項目で高まりが見られた。



ウ 事例2による意識調査で、清掃時に他の生徒から受けた「黒板を水拭きしたら、もっときれいになるよ」という助言に対して、「なるほどそうだ」と回答した生徒（寛容型）の割合が実験群において上昇していることが分かった。



② TTの指導を通して指導方法の工夫改善を行ったが、その成果としては、次のことが挙げられる。

ア 生徒の発表をすぐに板書するので、T1は授業の流れを切らずに進めることができた。生徒の感想にも「板書するのを待たなくてよいので、スピーディに感じた。」というものがあつた。

イ 生徒の予想される発言が、二通りに分かれることが予期される場合には、補助的な発問を指導案の中に具体的に準備しておくことで、指導を円滑に進められることが分かった。

(2) 考 察

ア 事前の調査分析から、自分自身を高く評価すること、学校生活への適応、そして他の人の意見を尊重する態度とは、互いに相関関係にあることが分かった。その結果に基づいて、それぞれの観点を高める指導計画を立てて、実践していくことにより、事後の調査で生徒に変容が見られた。よって、この指導計画は「他に学ぶ広い心」を育成するのに効果があることが分かった。このことから、今回の研究仮説は、検証されたと言える。

イ 道徳の時間の指導において、TTによる指導は、生徒一人一人の道徳的価値の自覚を深めるのに効果があることが分かった。特に、授業の流れが、簡単に一つの方向に向かいそうな時に、生徒の心を揺り動かす他の価値観を提示することが可能である。その効果をより高めるために、T2が担う具体的な役割を明確にする必要がある。

(3) 課 題

ア TTを道徳の時間に導入するに当たり、その指導の在り方をさらに研究する必要がある。

イ 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間にするために、指導の工夫改善をしていかなければならない。その具体的な指導の在り方については、道徳的価値の揺さぶりや、中心発問の内容にかかっていることが改めて明らかになった。その点を資料の内容によって、検討していくことが重要になる。

IV 内容項目2-(2)「思いやり」についての指導(第2分科会)

1 主題設定の理由

人間は一人では生きていくことはできない。常に他者とかかわり合って生きていかなければならない。そしてその人間関係、すなわち社会生活を豊かなものにするためには、お互いに相手の立場を尊重し、助け合っていくことが不可欠である。中学生は、自己理解が深まり、自分自身の存在価値や生き方に関心が強くなっていく時期である。同時に他者の言動や人間としての生き方に影響を受けたり、あるいは社会のしくみなどについて考えられるようになる。また、それまで絶対的な存在であった親や教師に対しては、時には反発したり批判的になったりする。代わって仲間集団の言葉や態度が、人格形成に強い影響を与え始める。しかし、仲間集団に限らず、生徒を取り巻く様々な人間集団は、自我の確立にとって全てがプラスの方向に働くわけではない。また、バランスの取れた人間関係を保つのは困難である。だからこそ一人一人の生徒が、他者とかかわり方を自分の生き方に反映させて、自己を見つめることが道徳性の育成にとって極めて重要になる。一方、社会に目を向けると、価値観の多様化やライフスタイルの変化により、友人間、家族間での人間的な心の交流の場が急速に希薄化している。社会のモラルは低下傾向にあり、また、家庭や地域の教育力が低下し、本来そこで学んできた基本的なしつけや善悪の判断、あるいは思いやりや譲り合いの精神などが身に付きにくくなっている。このように社会の激しい変化は生徒の道徳性の発達に悪い影響を与えている。前述のように、中学生は他の人とかかわり方や接し方の大切さを実感するようになり、心の面でも大きく成長するときである。しかし残念ながら、人とかかわる社会体験は著しく不足しており、他の人の気持ちを察することができず、自己中心的になり、相手の気持ちを傷つけてしまうこともあり、中には自分一人で生きてきたと錯覚し、思いやりの気持ちどころか自分が中心でなければ納得しない生徒もいる。そこで私たちは、中学生の今日的傾向と現代社会の状況を考え併せて、生徒に現在の自分があるのは周りの多くの人達に支えられ、その人達の温かい心配りがあったからこそであることを自覚させ、感謝と思いやりの心をはぐくむことにより、人間としてさらに豊かな心で生きていく喜びをもつことができるのではないかと考えた。以上のように、第2分科会では、「豊かな人間性をはぐくむ」ためには、他者の立場を尊重する「思いやり」の心を育てることが大切であると考えて、以下の仮説を立てて、内容項目のとらえ方、生徒の実態の把握、資料の選定、指導の工夫等の研究を進めることにした。

— 仮 説 —

自分も他の人もともにかけがえのない人間として、自己を知り、温かい心を育てることによって自己安定を図り、他の人との触れ合いを大切にして、互いに理解しようとする心高める道徳の時間が実践されれば、思いやりの心をはぐくむことができるであろう。

2 研究の内容と方法

(1) 内容項目 2-(2)のとらえ方

内容項目 2-(2)は「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ」である。

「温かい人間愛」は他の人への「感謝と思いやり」の心を通して具現化される。人間は互いに助け合い協力し合いその中で他の人の思いやりに触れたとき、感謝の念を抱く。これは自分と他の人との温かい心の触れ合いと相互理解によって生まれる。他の人を思いやり親切にする。他の人が自分に対する親切な心を素直に受け止めて始めて、感謝の心が生まれる。思いやりの心は他の人に接する時、必要な心の在り方である。他の人の立場を尊重しながら親切にし、いたわり励ます生き方が思いやりである。その土台となるのは、互いに相手の立場を理解しようとする人間への深い思いと相手のためによかれと思いとる行為から生まれる心の触れ合いに対する共感である。

中学生の時期には、人間愛に基づく他の人とのかかわりの大切さを理解できるようになってくる。

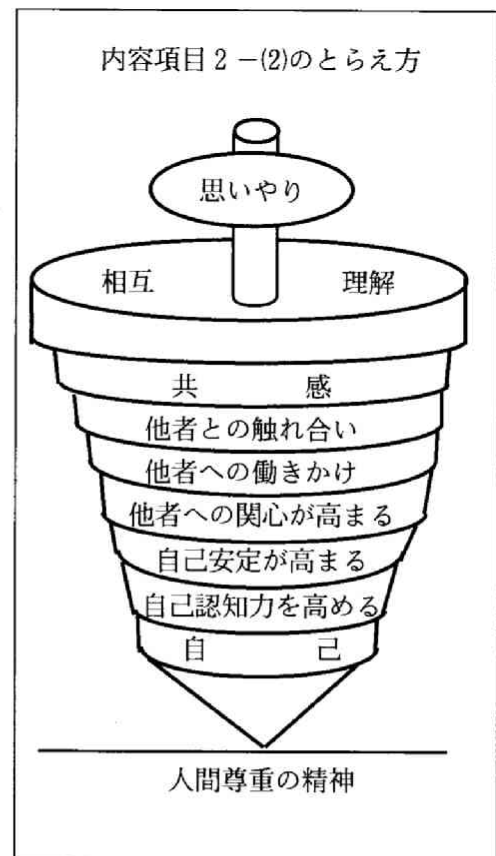
しかし、現代の社会環境の中で、人間愛への欲求不満から利己的、自己中心的になりやすい。そこで、指導に当たっては自分も他の人も、ともにかけがえのない人間であるということをしっかり自覚できるようにすることが大切である。

このことは右の図のようにぐるぐる回るコマにたとえることもできる。コマの軸は自己である。コマは細い軸（自己）だけでは、回転することはできない。自己認知力を高めることで自己を安定させることができる。自己の安定が高まり余裕ができれば他者への関心が高まり他者への働きかけもできる。

他者との触れ合いによって相互理解が生まれさらに触れ合いが深まる。自己の軸を中心に様々な力が、付随して単なる一本の軸がコマの形となり安定感が生まれる。互いに回転して続き、それがより安定感を増す大きさに育って行く中で、思いやりの心が生まれてくる。この触れ合いと相互理解の行き来が、コマを回す推進力となり、安定性も高めていくことになる。このコマを支える面、基盤となるものが人間尊重の精神と考えることができる。

今回の仮説は、他の人との触れ合いを大切にし、互いに理解しようとする気持ちを高める道德の時間の実践により「思いやりの心」をはぐくむというものである。自己も他者も、まずかけがえのない人間

であるとの自覚のもと、自己認知力を高め、自己の有用性を知ることへの関心や温かい心を育て、互いの理解を増すことで、思いやりの心をはぐくむといえるだろう。すなわち他

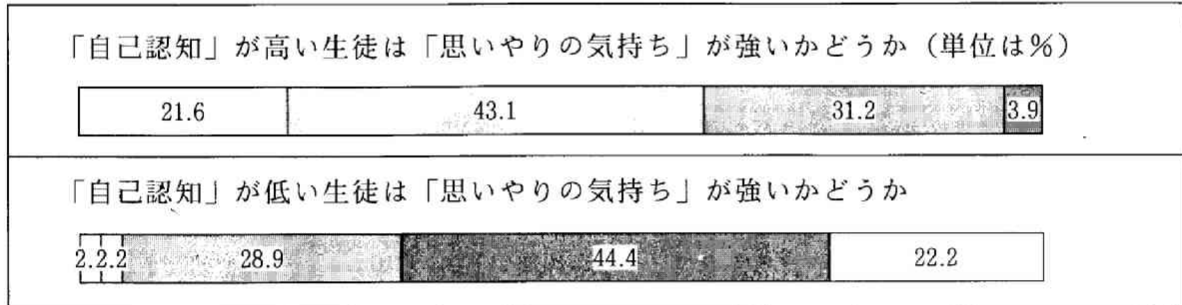


の人がかけがえのない人間であるという自覚のもとに互いに触れ合い、理解し、共感することにより思いやりの心をもつことができるのである。

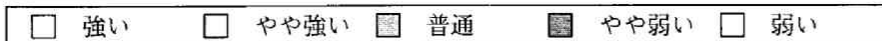
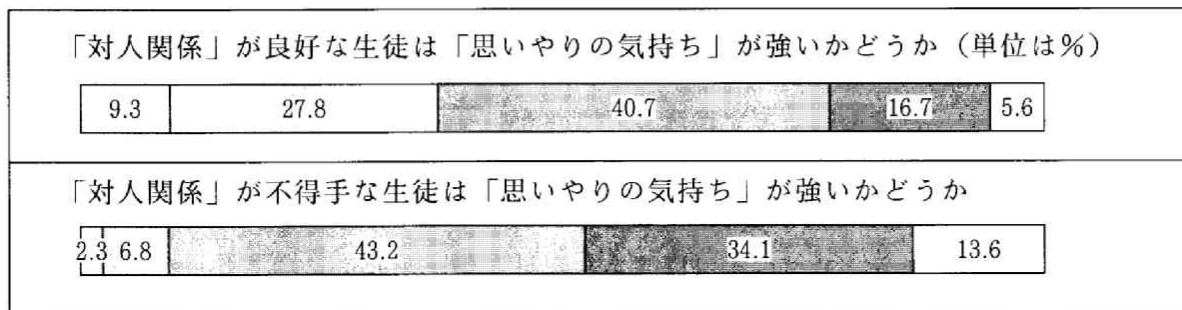
(2) 生徒の実態と指導計画

ア 調査研究について

「自己認知」に関連した結果



「対人関係」に関連した結果



- (ア) 事前調査から「自己認知」が高い生徒は自己の安定感が得られているため、自分だけでなく、他者にも関心を向ける傾向があることがわかった。他者への関心が高まれば、他者への働きかけが進み、他者との触れ合いの中で相互理解が深まり、思いやりの基盤となる人間関係が深まると考えた。
- (イ) 「対人関係」が良好な生徒は不得手な生徒に比べて「思いやりの気持ち」が強いことがわかった。
- (ウ) 以上の調査結果を基に、道徳の授業を通じて、「他者との触れ合いを大切に、互いに理解しようとする気持ちを育てる」ことを第2分科会の課題とし、以下の指導計画を実施した。

イ 指導計画

9月1週	学級活動	「水泳大会、陸上記録会に向けて」 *自己認知、対人関係 互いの泳力や走力を理解し、温かく励まし合う雰囲気を作る。 温かい雰囲気の中で安心して自分の力を発揮するとともに、他者を応援する気持ちを育てる。
2週	道徳授業	『受話器の向こうは』 2-(2) 思いやり 他の人の思いやりを素直に受け取ることがより良い人間関係をつくることに気づかせる。

3週	道徳授業	『車椅子の少年』 2-(2) 思いやり 相手にとって本当の思いやりとは何かを考えさせる中で他者への 関心をより深める。
4週	道徳授業	「701番目の商品」 *本報告書参照 2-(2) 思いやり
	学級活動	「文化祭に向けて」 *自己認知、対人関係 学級の合唱を作り上げるためには一人一人が大切な存在であることを意識させる。各自が自信を持って参加し、援助しあう雰囲気づくりを大切に して、温かい気持ちで取り組む気持ちを高める。

(3) 指導の工夫

ア 資料の選定と研究主題との関連

第2分科会では1-(2)「思いやり」を取り上げて研究するにあたり、資料は、生徒達が最も親しみやすく、日常よく見られるような話題を取り上げたものが最適と考えた。また道徳資料の要件である、素直に価値に感動できるもの、他者理解および自己理解につながるもの、自分の生き方に目を向けられるもの、という観点で資料の選定を進めていった。資料『STATION (ステーション)』(大石賢一・作、はしもとみつお・画)、第1巻第9話「701番目の商品」より抜粋(小学館刊ビッグコミックス)は漫画であるが、生徒にとり視覚的に分かりやすく、しかも身近で最も親しみやすいと考えた。また、本資料では、普段、何気なく利用している駅で働いている駅員や売店で働く人、その家族の姿を通して「思いやり」の気持ちがさりげなく表現されている。上記の3点の要件もふまえてあり、生徒が自己の心を省みて、思いやりを素直に感じ取ることのできる資料である。よって、以上の点から本資料を選定し研究を行うことにした。

イ 導入の工夫

生徒の問題意識を高めるとともに深め、よりよく成長していこうとする気持ちを起こさせるための導入として以下のような工夫を行った。

- ・生徒にとって身近な話題であることを強調するために、駅の売店利用の経験を聞き、売っているものをあげさせた。
- ・チームティーチングの教員6名を生徒紹介し挨拶をするとともに、班の担当を決めておくことで、生徒が自分の担当者を事前に知っておくことで、温かい雰囲気ですべてが行えるようにした。

ウ 展開の工夫

資料の範読では、電車の効果音を取り入れて生徒が資料の情景をとらえやすくなるようにした。また、6人の教師で登場人物ごとにせりふを朗読し、スムーズに資料の世界に入れるようにした。

○板書計画の工夫

自分が資料の登場人物になり、発問ごとに自分の立場を置き換えて考えられるような板書づくりに心がけた。そのために、資料の一コマを拡大して黒板に掲示することにより質問のイメージが分かりやすくなるようにした。またその場面の当事者の表情も分かるので視覚的に考えられるようになり、生徒の多様な意見を引き出すのに効果的であった。

① 701番目の商品

雑誌を取っておきますか?

②

君子の気持ちが変わったのはどうしてでしょう?

③

取っておかない
・ 記憶にない
・ 顔をおぼえていない

取っておく
・ 必ず買いにくる
・ 発売日まで

③

② キオスクの仕事 女しかできない
・ 働いている姿輝いている

③ 701番目の商品とは
・ 心配り(お客への態度対応しかた)
・ マコちゃんの執意と愛情 (お客と仕事への)
・ マコちゃん笑顔(元気がける)
・ マコちゃん一人一人への思いやり
・ すばやさ(元気・プロ)
・ 明るく元気な笑顔(ニコニコ)
・ マコちゃん自身(人とかかわりを大切に)

○発問の工夫

『他の人との触れ合いを大切にし、互いに理解しようとする気持ちを高めることによって、思いやりの気持ちをはぐくむ。』ことがねらいである。主人公の「マコちゃん」がお客さんや、娘など、いろいろな人間とのかかわりの中で、思いやりの気持ちを持って接している姿勢を取り上げ、ねらいに迫れるようにした。中心発問では、どこにも売っていない701番目の売り物とは、「マコちゃん」の笑顔であることを示し、それを自分の言葉で置き換えさせることで高められた『思いやりの気持ち』がさらに内面ではぐくまれていくようにした。なお、生徒が考えるための時間を多く取り、多くの生徒に発表させる機会を作ることは重要なことである。そのため、発問は精選し三つにした。

○話し合いの工夫

ねらいを達成するために、他人と触れ合い、意見を発表し合う中でお互いを理解しようとする気持ちを深めさせたいと考えた。生徒が主体的に生徒同士で意見を活発に出し合い、話し合いを深めていくために、5～7名ほどの小グループで話し合いをするようにした。その際、6人の教師が各班に1名入り、価値を高めていくような話し合いができるように工夫した。

エ 終末の工夫

資料が漫画であったので、生徒の心に余韻を残すために、終末では作文や詩など文章を用いるのが効果的と考えた。相田みつをの詩は、その字体も内容も生徒の心情を揺さぶるものであり、十分な効果があったと思われる。

オ TTの効果

上記のように、今回、6名の教師でTTの授業を行ったが、道徳の授業においては、その効果は非常に高いと考えられる。特に今回の授業では、生徒一人一人の考えを引き出すことができ、生徒同士の意見交換が深まるとともに、生徒と教師との触れ合いという点でも効果が実感できた。

(4) 指導事例（2 学年）

ア 主題名 「思いやり」＜内容項目 2-(2)＞

イ 資料名 『STATION（ステーション）』（大石賢一・作、はしもとみつお・画）

第 1 巻第 9 話「701 番目の商品」より抜粋（小学館刊ビッグコミックス）

ウ 資料の概要

駅売店の店員『マコちゃん』は、一人で700種類の商品を扱っている。たくさんのお客との触れ合いを大切にしている。必ず発売日に来て、ある雑誌を買って行く若いサラリーマンが来ないので、健康を気遣いその雑誌を取っておいた。必ず買いに来ると信じ、待っていると、その雑誌を買いに来る。「ここにはおばちゃんしか売っていないものがあるからな！」と言ってくれるお客がいるほどの豊かな心を持っている。そんな中、娘は、のんびり家にいてほしいと思っている。しかし、母の仕事の様子を知り、世間の役に立っている母の姿（仕事）を応援するようになる。

エ ねらい

他の人に自分の考えを伝え、互いに理解しようとする気持ちを高めることによって思いやりの心をはぐくむ。

オ 学習指導過程

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	教師の動き	指導上の留意点
導 入	1. 駅の売店を利用した経験を思い起こす。 2. 「駅の売店」から思い浮かべるものを発表する。	・利用経験あり→多数 ・ガム ・雑誌 ・新聞 ・おばちゃん 等		T1に集中させるために、前扉は閉める。 資料に導くための雰囲気を作る。
展 開	3. 資料を受け取る。 4. TT教師の紹介を受ける。 5. 6人の教師による資料の読みを聞く。 6. 生活班の座席になる。(6班)	・漫画が渡される驚きや喜び ・驚き ・盛り上がり	T1が資料配布する。 T2～6は前扉より温かい雰囲気での入場 登場人物を中村(T1)、マコちゃん(T2)、君子(T3)、若いサラリーマン(T4)、駅員 A(T5)、駅員 B(T6)、その他(T1～T6)に分けて朗読。 T1～6が、それぞれいすを持って各班に分かれてコーディネーターとなる。	効果音を利用する。(T6) 6人の教師で役割を決め、資料理解を深める。 他の人との触れ合いや相互理解が高められるようにする。

展	<p>【発問①】</p> <p>「あなただったら、サラリーマンのために、雑誌を取っておきますか。」</p> <p>全体の中で個人の意見を発表</p>	<p>=取っておく=</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サラリーマンが取りにくると信じている。 ・サラリーマンへの気遣い。 <p>=取っておかない=</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よそで買っている。 ・めんどくさい。 <p>・挙手なし。</p>	<p>T1による板書で場面と発問を確認。</p> <p>班員同士の話し合いになるようにコーディネートする。</p> <p>記録に取る。</p> <p>T1が班担当教師に推薦してもらう。</p> <p>T2T3が意見を板書。</p>	<p>理由を引き出す。</p> <p>他の人との触れ合いを引き出したい。</p> <p>なぜ取っておいたのかを深める。</p> <p>「取っておかない」とした生徒が否定されないように配慮する。</p>
開	<p>【発問②】</p> <p>「母の仕事を応援するように、『君子』の気持ちが変わったのはどうしてでしょう。」</p> <p>全体の中で個人の意見を発表する。</p> <p>7. 個人の座席に戻す。</p> <p>8. ワークシートを受け取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・母の働く姿を見て、人の役に立っていることに気づいた。 ・母がお客に思いやりの気持ちをもって接しているのに惹かれた。 ・お客への母のやさしさに感動した。 ・この仕事は母はでなくてはだめだと思った。 ・この駅に母が必要なんだと思った。 ・母の生きがいとわかった。 ・母の好きにすればいいと思った。 <p>・挙手なし。</p>	<p>T1による板書で場面と発問を確認。</p> <p>班員同士の対話となるようにコーディネートする。</p> <p>記録に取る。</p> <p>T1が班担当教師に推薦してもらう。</p> <p>T2T3が意見を板書。</p> <p>T1～6は担当の班の周辺で待機する。</p>	<p>生徒主体としていく。</p> <p>互いに理解しようとする気持ちを高めたい。</p> <p>自己の心を省みることができるように。</p>

展 開	<p>【発問③】</p> <p>「原作では、P.11の <input type="checkbox"/> 内に『マコちゃん の笑顔』という言葉 が入ります今日の授業 のまとめとして『マコ ちゃんの笑顔』以外に 考えられる言葉を <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 内に入れてみましょ うまたその理由を書き ましょう。</p>	<p>「スマイル」</p> <ul style="list-style-type: none"> 最後の絵が笑ってる。 『マコちゃん』は、い つも笑っている。 <p>「思いやり」 「気遣い」 「温かさ」 「温かい心」 「やさしさ」</p> <ul style="list-style-type: none"> お客を大切にすることを 大事にしている。 お客を大切にすること が好き。 お客との触れ合いが好 き。 言葉ではない心の触れ 合いが好き。 <p>「ほこり」 「生きがい」 「元気」</p>	<p>T1による板書で場面 と発問を確認する。</p> <p>T1～6で担当の班を机 間指導する。</p>	<p>自己の心を省み て、思いやりを 感じさせたい。</p> <p>個々の意見を大 切に扱う。</p> <p>どの意見も思い やりの観点に置 き換え、まとめ ていく。</p>
	<p>全体の場で個人の意見 を発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> 挙手なし 	<p>T1が班担当に推薦し てもらおう。 T2T3が意見を板書。</p>	
終 末	<p>9. 相田みつをの詩 「おてんとうさまの ひかりをいっぱい吸っ たあたたかい座ぶと んのような人」を紹 介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> T1および黒板に注目 	<p>T1が板書。 T1による説明。 T2～T6は後方より参 観。</p>	<p>あえて読み上げ ず、余韻の残る ようにする。</p>



TTの授業風景

カ 評価の観点

- ・生徒同士が班の中でねらいに関する意見交換をしたか。
- ・互いに理解しようとする気持ちを高められたか。

キ 生徒の感想から

- ・マコちゃんのように、人のことを思いやりながら生きていくことはすばらしい。
- ・マコちゃんはどんなときもお客さんに対して、ニコニコして接しているけれど、自分にはなかなかそうは思ってもできない。でも素晴らしい生き方なので努力していきたい。
- ・いつもとはちがった、いろんな先生たちに教えていただいて楽しかった。
- ・少し緊張したけれど、仲間から自分と同じ意見や自分とまったく違う意見などが聞けて、楽しかったです。
- ・初めてこんな多くの先生が入って道徳の授業をした。最初はドキドキだったけど話し合いとかでいろんな考えが聞けてよかった。
- ・道徳は、簡単だと思っていたが、人のことを考えたりしたりするので一番考えさせられる時間だと思った。

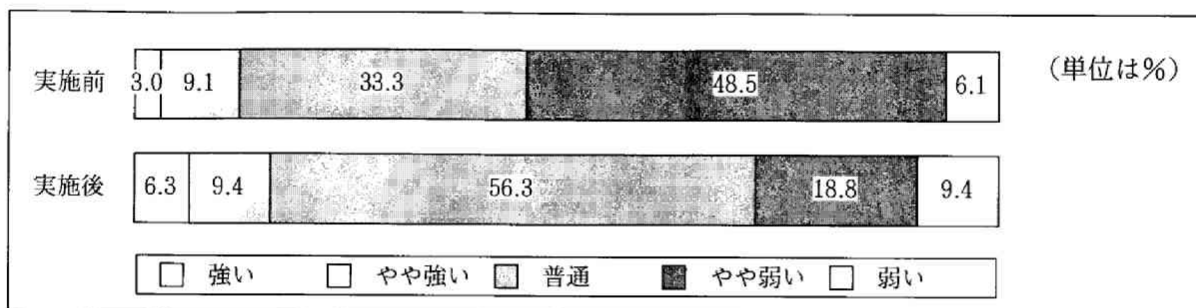
ク 授業の考察

今回の授業では生徒同士の話し合いの時間を多くとることに重点を置いた。話し合いが行いやすいよう、少人数による班単位とし、教師1人がコーディネーターとして入り、相手の立場を尊重しながら、より活発に発言できるようにした。また、話し合いや考える時間を多くとるため、発問の数を少なくし内容も精選した。資料については、読み物として生徒が親しみやすい漫画を取り上げ、教師6人による朗読劇を行った。これは生徒を資料の中に引き込むのに大変効果的であった。また、教師が班に1人つくことにより、平易に意見を発表するだけでなく、その意見に対してどう思うか、その理由について説明させ、話し合いを深めることができた。発問3では、空欄の中に入る言葉を説明してから他に入る言葉を考えさせることにより、生徒一人一人が資料から感じた印象について自由に考え、多様な意見を引き出すことができた。

3 内容項目 2 - (2) 「思いやりの心」のまとめ

(1) 事後調査の結果についての考察

「思いやりの気持ち」の強さの比較



上記のグラフから、研究前後の生徒の意識に変容が見られたことが分かる。思いやりの気持ちが弱かった生徒の割合が特に減少した。また、人の気持ちを理解するように心がける生徒・対人関係が良好な生徒が増加した。

このことから、思いやりについてだけでなく、自己認知や自己安定力を高め、他者への関心や働きかけが高められるような指導計画に沿って、指導を行うことの有効性が検証された。これらの項目は、事前調査で思いやりと関連が認められたものである。したがって、仮説について検証することができたと考える。

(2) TTについて

ア 複数の教師がかかわることにより、朗読劇など効果的な資料の提示ができた。

イ 各班に1人の教師がかかわり、生徒の反応に合わせた助言・対応ができ、話し合い活動を深めていくことができた。

ウ 授業での進行・板書・机間指導などを役割分担することにより、テンポよく授業を進め、個々の生徒の様子について把握し、生徒の多様な意見を引き出すことができた。そのことによって、個々の生徒の道徳的価値を高めるねらいに沿って考えさせることができた。

エ 6人のTT指導は、日常的には難しいと思われるが、年間に1回位であれば、学年全体で取り組む指導計画を組み、学年の教員全体で実施するときには、今回の指導は役立つと思われる。

(3) 発問について

ア 発問の数をできるだけ少なくすることによって、生徒にねらいとする道徳的価値についての絞って、多くの生徒の意見を聞くとともに、深く考えさせることができた。

イ 発問は生徒の多様な意見を引き出すことができるものとするように工夫し、それを発表させることによって、自分以外の様々な意見、考え方に触れて考えを広め、生徒相互の理解を深めることができた。

(4) 課題

ア 生徒の心を引き付け、道徳的価値にせまれる資料の発掘・選定を行っていくこと。

イ 道徳の時間の年間指導計画の作成にあたっては、重点的な指導に関して他の教育活動と密接に関連付ける必要がある。

V まとめと今後の課題

1 まとめ

- (1) 研究の方法に実験法を取り入れ、生徒の意識調査を事前・事後に行ったが、この方法については研究により生徒の意識の変容を客観的にとらえることができ有効であった。また、授業のねらいを明確にし、指導計画を立てるうえで重要な示唆を得た。
- (2) 道徳の授業を実践する中で、「指導の工夫」が求められているが、今回導入したTTによる授業実践は、担任教師のみの指導という枠をはずすことで授業に変化を加え、複数教師による個別指導は生徒の道徳的価値観を引き出し、授業を活性化させることができた。
- (3) ねらいとする道徳的価値を深められるかどうかは、発問にかかっている。発問はできるだけねらいに迫れる具体的な内容とし、生徒の多様な考え方を引き出せるものであれば三つぐらいが適当である。
- (4) 一つの道徳的価値の自覚を深めるには、その内容項目だけでなく調査研究等で明らかになった関連する内容項目を含め、かつ他の教育活動とも連携させた指導計画が有効であることがわかった。

以下にTTによる指導を導入するための留意点と効果を挙げたい。

- ア 生徒の実態に応じた授業のねらいを具体的に短く絞り込み、ねらいとする道徳的価値を事前に共通理解しておく。
- イ 読み物資料を分担して提示する際には、二人以上の登場人物がいる場合有効である。
- ウ 指導案を作成する際には二人が役割を分担し、生徒の心を揺さぶったり、授業の流れに応じて代替するような発問を工夫する。その際、生徒が道徳的価値を深め、自分自身を振り返るような揺さぶり発問となるようにする。
- エ グループによる話し合いの中にそれぞれの教師が積極的にかかわり、生徒一人一人の道徳的価値が深められるように心がける。
- オ 生徒に中心発問について考えさせる場面では、生徒同士の役割演技が有効な方法として挙げられるが、生徒がTT教師の役割演技を見て考える場面を設定できる。
- カ 板書においては、資料の場面や主人公のイラストを掲示するなど、授業の雰囲気作りに配慮するとともに、生徒を待たせないような板書を分担する。

2 今後の課題について

- (1) 意識調査では、道徳的価値に関する事例の内容を十分に吟味する必要がある。
- (2) 自己認知の低い生徒の道徳的価値の変容をいかに図るべきか。本研究の意識調査から自己認知の低い生徒については、意識の変容が見られない傾向があることが分かった。このような生徒こそ道徳的価値について理解するとともに人間としてよりよく生きる力を身に付けさせることが大切である。その方法については、個別に日常の教育活動の中で温かい声かけをするとともに、TTなどの方法により個別指導を十分に行っていく必要がある。

以上、今回の研究を基に各校の実態に即した実践を積み重ね、よりよい指導の在り方をさらに確立していきたいと考える。